

昨年の暮、車の左側をガードレールで擦ってしまった。さっそく修理に出したのであるが、1月末で車検の有効期間が切れるので、ついでに車検もたのんだ。その時、修理屋は4日で返すと言って車をもっていった。

ところが10日たっても音沙汰がない。車を使うことに馴れてしまうと、今まで以上に不便さを感じるものである。

催促するつもりで電話で問合せをしたら、修理は終わっているが、車検場が年末で混んで予約がなかなかとれないというのである。なんと気のきかない。「まだ有効期間は1カ月もあるだろう。暮はお互いに忙しいのだから、いったん返しておいて正月にとりに来るくらいサービスができねエのか、もうたのまん。すぐ返してくれ」と言ってやった。修理屋さんはビックリして車を返しにきた。「明後日に車検の予約がとれましたから、是非やらせて下さい」と執拗にたのむのである。しかし、どうも気が進まなくて断ってしまった。

正月休みは伊勢・鳥羽へ2泊3日で行かかけた。話には聞いていたが全くよく混んだ。幸い天気もよく暖かな日が続いたせいでもあろう。伊勢神宮の参道は地下鉄のラッシュ時のプラットフォーム並みの混雑であった。それでも時折りパチリ、パチリと家内や娘の写真をとりながらご機嫌で帰ってきた。ところがである。家へ帰って早速写真の現像に出そうと思って、カメラを空けてビックリ、フィルムが入っていないのである。レバーをまわした手応えは確かにあったのだが……家内と娘にさんざん責められたことはいうまでもない。しばらくカメラをいじっていないだったので、勘が狂ったといいわけをしてみても後の祭りである。しかし、フィルムの入っていないカメラの前で「ハイ、ポーズ」なんて、思い出すとふき出しなくなる。いつか家内に「あなたが疲れている時は寝顔を見ているとわかります」と言われたことがあった。どうやら、家庭にあっては自分が思っているより以上に馬鹿面をしているらしい。

正月休みが終ってマイカー出勤を始めたなら、また車検のことが気になってきた。義弟が浜松で車の販売関係の仕事をやっているのだから、電話で年賀の挨拶のついでに信頼できる修理屋を紹介してくれとたのんでみた。彼の話

では、彼がよく利用している修理屋なら2日もあればやってくれるので、遊びがてら休日を利用して浜松まで乗ってこいというのである。久しぶりに浜名湖見物に出かけるかということで、落ち合う場所と日時を打合せた。

当日は天気もよく暖かで浜名湖の景色も申し分なかった。ゆっくり行っただけだったが1時間で着いてしまった。義弟と合流して修理屋を訪ねたのであるが、気のいい親父さんと職工さんが6人、事務は奥さんが1人でやっていた。おどろいたのは狭い事務所にオフィス・コンピュータがでんと置かれているのである。

親父さんは義弟と車のボンネットを開けて覗き込んだりして点検していたが、間もなく事務所にもどってきて「車検は明日中にやれるでしょう。代車はどうしますか?」というのである。代車の意味がわからなかったので問い返したら、こんな話をしてくれた。

修理屋が預っている日数が長くなると、お客さんのほうもなにかと不便が重なるので、その間代わりの車をサービスとして貸すのだそうだ。この代車の経費が馬鹿にならないのであるが、代車をもっていないとお客さんが離れていくというのである。事実、小生もそうであったように、車の修理屋も過当競争時代で、工場で預かる時間を最小限にして代車を減らすような工程管理、注文の受け方が生き残るための重要なポイントになっているようだ。

「ところでね、さっきからこのオフィス・コンピュータが気になってしょうがないのですが、どうぞ導入してメリットはありましたか」と質問してみた。親父さんの説明によれば、女子事務員が退職した時に、その代わりに導入したそうで、経費も女子1人分の人件費を払っていると思えばまあまあということらしい。ところが、奥さんに言わせると、「とんでもない、家事専業であった私がオペレータ兼お茶汲みをやってるでしょう。しかも無給でしょう。家の中は放ったらかして、セールスにきた人がとにかく熱心で毎日きましたよ。それで“ご同業の××さんも入れましたよ”って言われたら、この人コロツとなくなっちゃって……」と悪評タラタラであった。コンピュータの売り込みも化粧品のセールス並みになってきたなと感じながら、そのセールスマン氏に脱帽した。(M.M.)

## 車の修理工場の話題